



2020 INFORMATION

社会医療法人 壮幸会
行田総合病院

本日は行田総合病院の2021新卒事務職就職説明会にご参加いただき誠にありがとうございます。

2020.05.13更新

- 【1】 病院概要
- 【2】 理事長挨拶
- 【3】 基本理念と運営方針
- 【4】 病院の沿革
- 【5】 病院の取り組み
- 【6】 2020年度職員募集について

【1】 病院概要

【2】 理事長挨拶

【3】 基本理念と運営方針

【4】 病院の沿革

【5】 病院の取り組み

【6】 2020年度職員募集について

【1】 病院概要

病院概要

名称	社会医療法人 壮幸会 行田総合病院
住所	〒361-0056 埼玉県行田市持田376
開設	1988年12月
許可病床数	総病床数504床（一般450床・療養54床）
職員数	法人全体1158人 病院のみ1022人 （病院内訳）医師132人/看護職員477人/医療技術職210人/事務職員150人、その他50人 ※2020年4月1日現在

【1】 病院概要

病院概要

診療科

内科、循環器内科、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科、腎臓内科、神経内科、リウマチ科、外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、血管外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、小児科、麻酔科、放射線科、病理診断科、リハビリテーション科

健診・検診

脳ドック 人間ドック 企業・一般検診 人工透析

各種指定

地域医療支援病院、災害拠点病院、基幹型臨床研修病院、がん診療指定病院、病院機能評価認定病院（3rdG:ver2.0）、埼玉県救急搬送困難事案受入病院、二次救急指定病院、日本DMAT隊員養成研修修了施設、埼玉DMAT指定病院

救急指定による役割の違い

■ 3次救急医療

二次救急まででは対応できない一刻を争う重篤な救急患者に対応する救急医療。
大学病院、赤十字、各都道府県の中核地にある医療センターなど

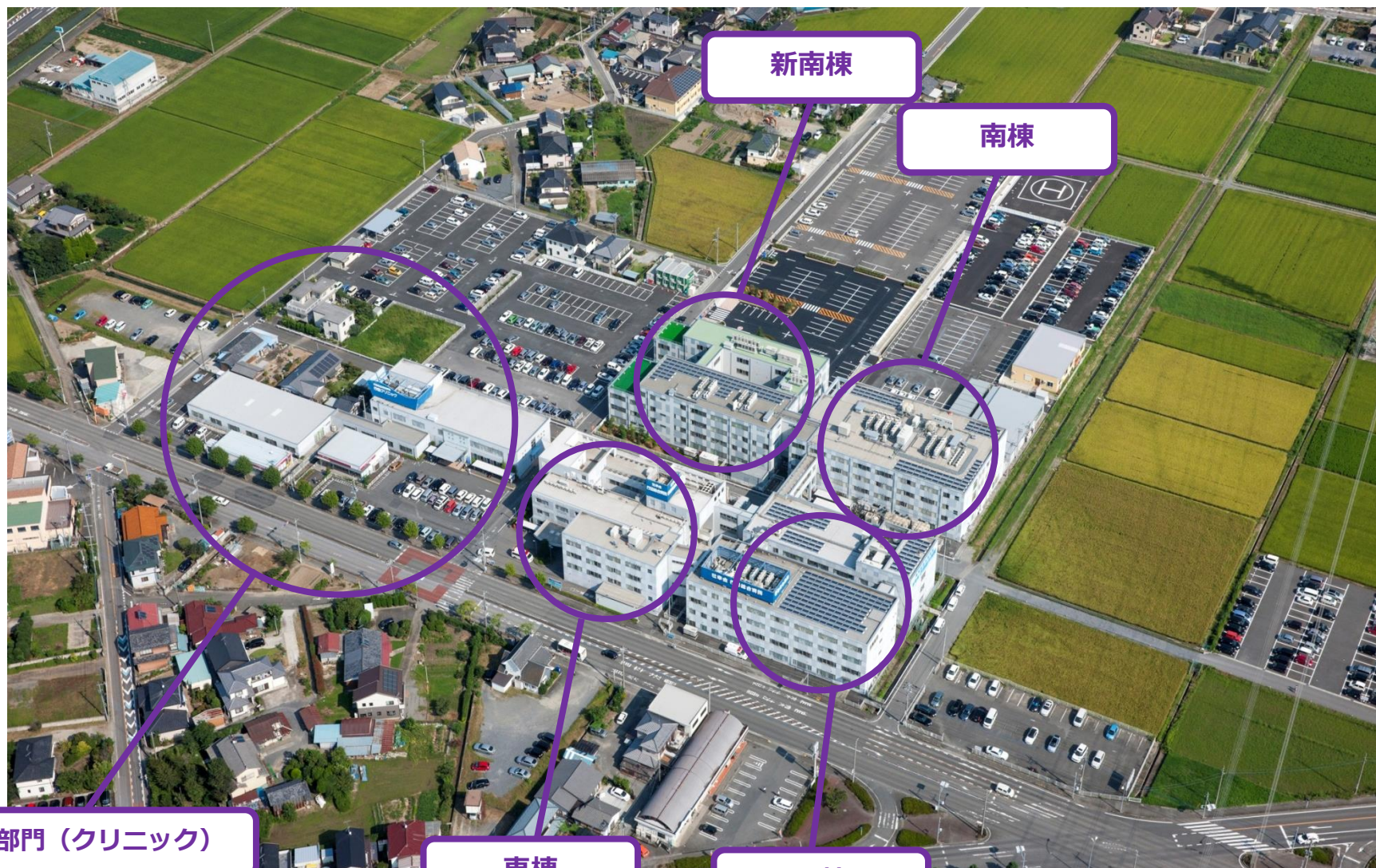
■ 2次救急医療 ※当院はここに該当します

入院治療や手術を必要とする重症患者に対する救急医療。
各市町村の総合病院など

■ 1次救急医療

入院治療の必要がなく、外来で対処しうる帰宅可能な軽傷患者に対応する救急医療。
休日夜間急患センターや在宅当番になっている休日当番医（かかりつけ医）など。

【1】 病院概要



【1】 病院概要

病院外観（新南棟正面）

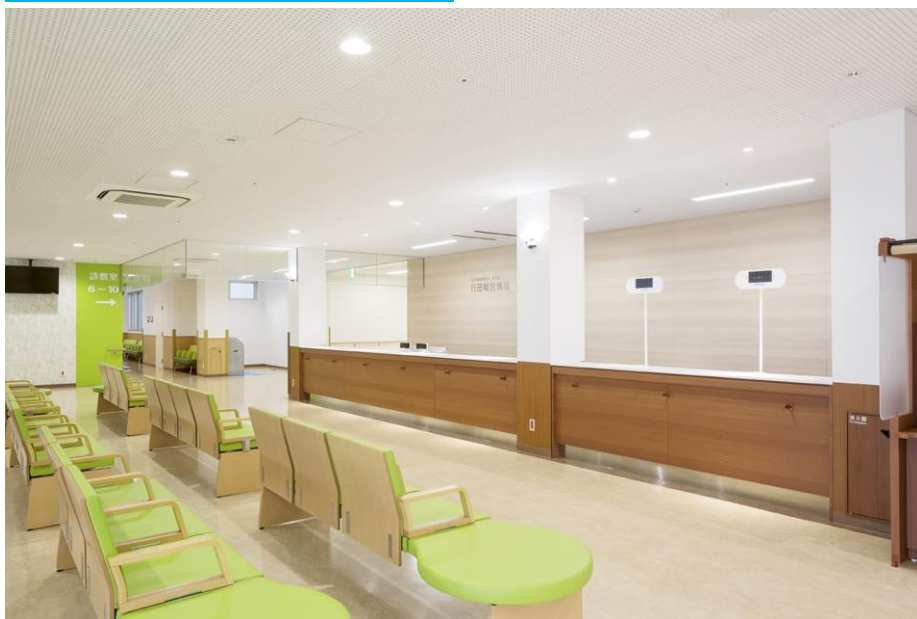


病院外観（新南棟とDMAT Car）



【1】 病院概要

院内（新南棟受付）



院内（新南棟医事課）



【1】 病院概要

院内（病棟スタッフステーション）



院内（病室）



【1】 病院概要

手術室（ダヴィンチ稼働中）



病院外観（ドクターヘリ受入）



【1】 病院概要

【2】 理事長挨拶

【3】 基本理念と運営方針

【4】 病院の沿革

【5】 病院の取り組み

【6】 2020年度職員募集について

【2】 理事長挨拶

壮幸会行田総合病院は、「24時間365日継続する医療。断らない医療」を柱に救急医療から在宅まで地域との絆を大切に守り、安心して暮らせる街づくりのために職員一丸となって精進してまいりました。

1988年の開設以来、2011年に社会医療法人の指定を受け、「地域医療支援病院」「災害拠点病院」「がん診療指定病院」「基幹型臨床研修病院」「救急搬送困難事案受入病院」「日本DMAT隊員養成研修修了施設」など様々な指定を受け、成長し続けています。

2017年には手術支援ロボットを導入しました。泌尿器科による前立腺がん摘出手術開始以降、2018年には腎がんの部分摘出、膀胱がん摘出と対応症例も増え、2019年には消化器外科による直腸がん摘出手術、がん薬物療法専門医による腫瘍内科外来もスタートしています。

地域に目を向けますと、介護や在宅医療の支援まで、患者さん個々のニーズに応えられるサービスの提供が病院に求められるという考えから、医療・福祉の総合的な支援体制強化にも注力し、介護老人保健施設ハートフル行田、在宅介護支援センター、訪問看護ステーション、訪問介護ステーション、複合型介護保険施設心春、社会福祉法人壮幸会特別養護老人ホーム雅を開設しています。また、音楽コンサートや市民公開講座などは定例となり、医師と職員が協力し合って患者さん・ご家族・地域の方々のために様々な情報を発信しています。さらに一歩ずつ、地域の未来を担う総合病院としての役割を果たしてまいります



社会医療法人壮幸会 行田総合病院
理事長 川嶋賢司

【1】 病院概要

【2】 理事長挨拶

【3】 基本理念と運営方針

【4】 病院の沿革

【5】 病院の取り組み

【6】 2020年度職員募集について

【3】 基本理念と運営方針

基本理念

私たち壮幸会グループは医療・介護・福祉に渡る総合的なサービスの提供を通じて、地域社会に貢献し、その発展に寄与することを使命とします。良質かつ安全なサービスを患者さんの視点に立って提供できるように、日常の業務に取り組みます。

運営方針

- 1．地域医療機関との密接な連携を基に、信頼される地域中核医療機関としての地位を確立します。
- 2．最新の医療用機器の導入を図り、医療・看護・介護・福祉の質の向上に向けて研鑽を積みます。
- 3．救急医療、在宅医療にも積極的に取り組み、地域の人々の安心と幸せのために全力を尽くします。
- 4．快適な治療環境の整備と患者さん中心の医療サービス提供に努め、患者満足度の向上をはかります。
- 5．経営方針にのっとり業務の遂行に必要な教育・研修に力をいれ、組織力強化に努めます。

【1】 病院概要

【2】 理事長挨拶

【3】 基本理念と運営方針

【4】 病院の沿革

【5】 病院の取り組み

【6】 2020年度職員募集について

【4】 病院の沿革

1988年	医療法人壮幸会 行田総合病院として4科120床で開設
1996年	『介護老人保健施設ハートフル行田』を開設
1997年	『行田市在宅介護支援センター壮幸会』 『壮幸会行田訪問看護ステーション』を開設
1999年	『訪問介護ステーション壮幸会』を開設
2000年	二次救急病院に指定
2002年	増床 総病床数278床
2003年	日本医療機能評価機構『ver.3.1』を認定
2004年	電子カルテシステム稼働、臨床研修指定病院（管理型）に指定、地域医療支援病院に指定
2005年	救急医療センター開設 増床 総病床数408床
2008年	日本医療機能評価機構『ver.5.0』に認定更新
2009年	『介護保険施設 心春（こはる）』を開設 ヘリポート完成 ドクターヘリ就航開始
2010年	災害拠点病院に指定 がん診療指定病院に指定 7対1看護師配置基準を取得
2011年	法人格を社会医療法人に移行
2012年	増床 総病床数504床 日本DMAT隊員養成研修修了施設認定 埼玉県特別機動援助隊SMART登録
2013年	日本医療機能評価機構『3rdG:ver1.0』に認定更新
2014年	DMAT CAR配備
2015年	新南棟増設開棟
2016年	『社会福祉法人壮幸会 特別養護老人ホーム 雅』開設、埼玉県救急搬送困難事案受入病院に指定
2017年	手術支援ロボットda Vinci導入
2018年	血管撮影室増設/血管連続撮影装置導入 手術室拡張 日本医療機能評価機構『3rdG:ver.2.0』更新
2019年	腫瘍内科外来・消化器外科ロボット手術・カテーテルアブレーション開始、DPC係数1.3761

【1】 病院概要

【2】 理事長挨拶

【3】 基本理念と運営方針

【4】 病院の沿革

【5】 病院の取り組み

【6】 2020年度職員募集について

【5】 病院の取り組み

患者受入件数（2019年度実績）

外来患者数	約600～800名/日
入院患者数	7,713件/年
救急搬送件数	10,026件/年（うち救急車5,017件、うち自家用車等来院5,009件）
手術件数	2,527件/年

入院患者地域別割合（2019年度実績）

	行田市	熊谷市	鴻巣市	羽生市	加須市	深谷市	東松山市	北本市	県内その他	県外
患者比率	40.5%	11.1%	30.1%	1.9%	3.0%	1.9%	2.8%	1.5%	5.7%	1.5%

【5】 病院の取り組み

地域医療支援病院として

地域医療支援病院とは、1997年の医療法改正で制度化された、地域医療の中核的な役割を担う病院です。

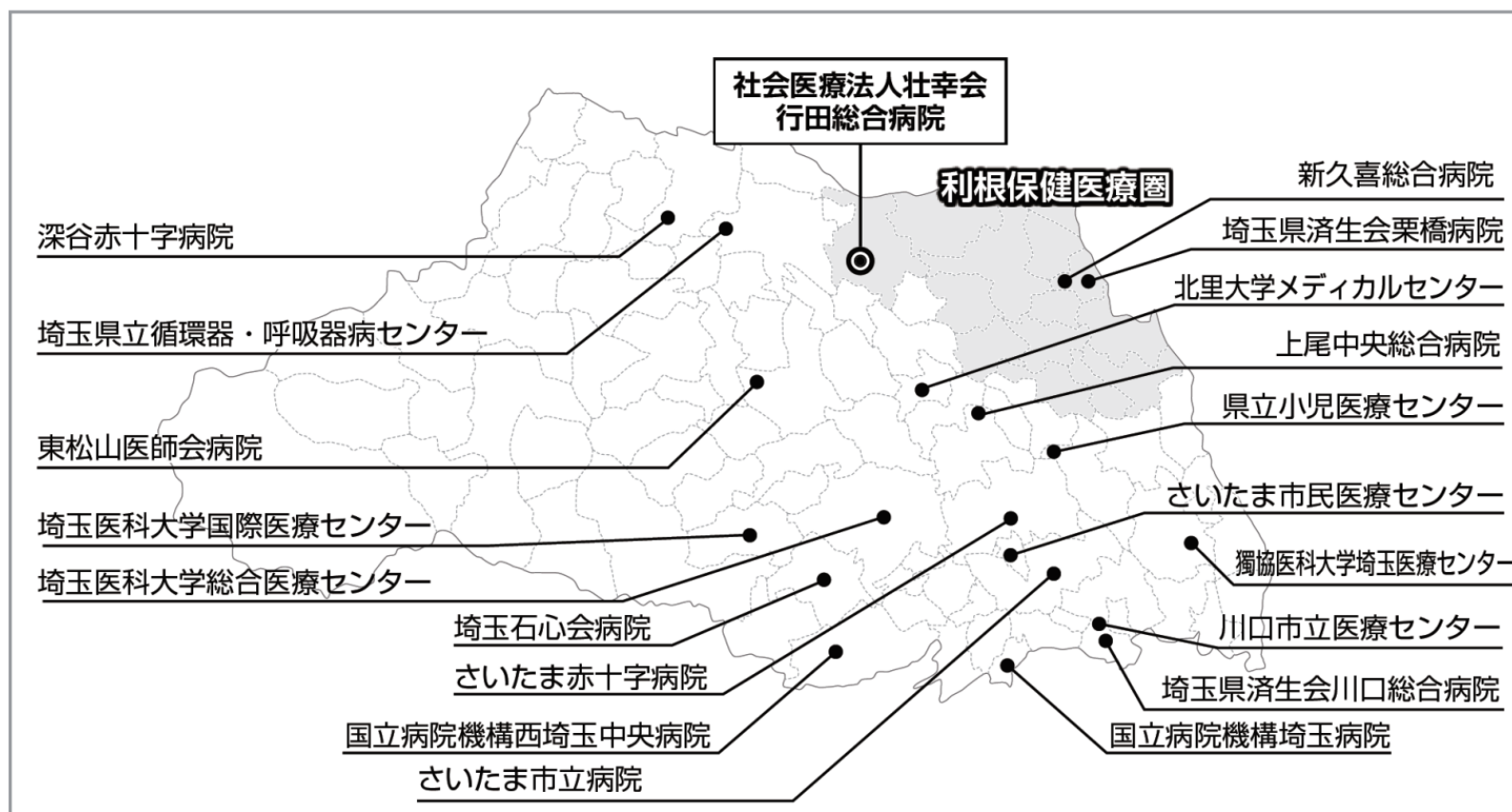
入院治療に重点を置き、地域の中小病院や診療所からの紹介患者を受け入れます。また、二次救急医療を担うとともに、高額な医療機器を地域の他の医療機関の共同利用のために提供し、地域の医療従事者に対して、その知識や技術の向上のための生涯教育研修を実施するが求められています。

行田総合病院では、入院や手術など専門的な医療を必要とする患者さんを積極的に受け入れ、救急医療の提供や高額医療機器の共同利用、地域の医療従事者のための研修会の開催など、地域医療の後方支援に取り組んでいます。また、事務部門内に「地域医療連携室」を置き、専従スタッフを中心に地域の医療機関との日常的な情報交換活動を活発に行っています。

医療機器の共同利用では、CT・MRI・アンギオなどの高額医療機器を中心に、数十施設にのぼる地域の病院や診療所から、年間400～500件の撮影依頼を受けています。診療科は、内科・整形外科・脳神経外科をはじめ、産婦人科、眼科、歯科と多岐にわたっています。まさに、医療機器を地域の共有財産とする試みです。また、地域の医療従事者を対象とする研修としては医療機関の関心が高い「リウマチ疾患」と「疼痛疾患」について定期的な研修会を開催しています。当院の常勤医師が講師を務め、地域の医師と熱心な議論を繰り広げています。

【5】 病院の取り組み

埼玉県内の地域医療支援病院（2019年11月現在）



地域医療支援病院の承認条件

①紹介患者に対して医療を提供すること（特別な計算による紹介率が80%以上） ②病院の建物や設備機器を他の医療機関の診療や研究のために利用させる体制にあること ③救急医療を提供する能力を有すること ④地域の医療従事者のための研修を行わせる能力があること ⑤200床以上の入院施設を有すること ⑥一般の病院に必要な施設の他、集中治療室、化学・細菌・病理の検査施設、病理解剖室、研究室、講義室、図書室などを有すること

【5】 病院の取り組み

災害拠点病院として

災害拠点病院とは、災害対策基本法に基づいて都道府県知事が指定する病院で、県内や近県で災害が発生し、通常の医療体制では被災者に対する適切な医療を提供することが困難な場合に、都道府県知事の要請により、傷病者の受け入れや医療救護班（Disaster Medical Assistance Team = DMAT）の派遣を行う病院です。

行田総合病院は、2011年3月に災害拠点病院の指定を受けました。災害拠点病院は、地域の他の医療機関を支援する第一線の病院です。日頃からさまざまな訓練を行い、災害時に備えています。

最先端医療機器の導入やスタッフの充実はもちろんのこと、院内随所に、非常時に必要な酸素の供給と吸引のできる末端が配置されています。また不測の事態に備え、テント・発電機・飲料水・食料・生活用品などの備蓄もしています。

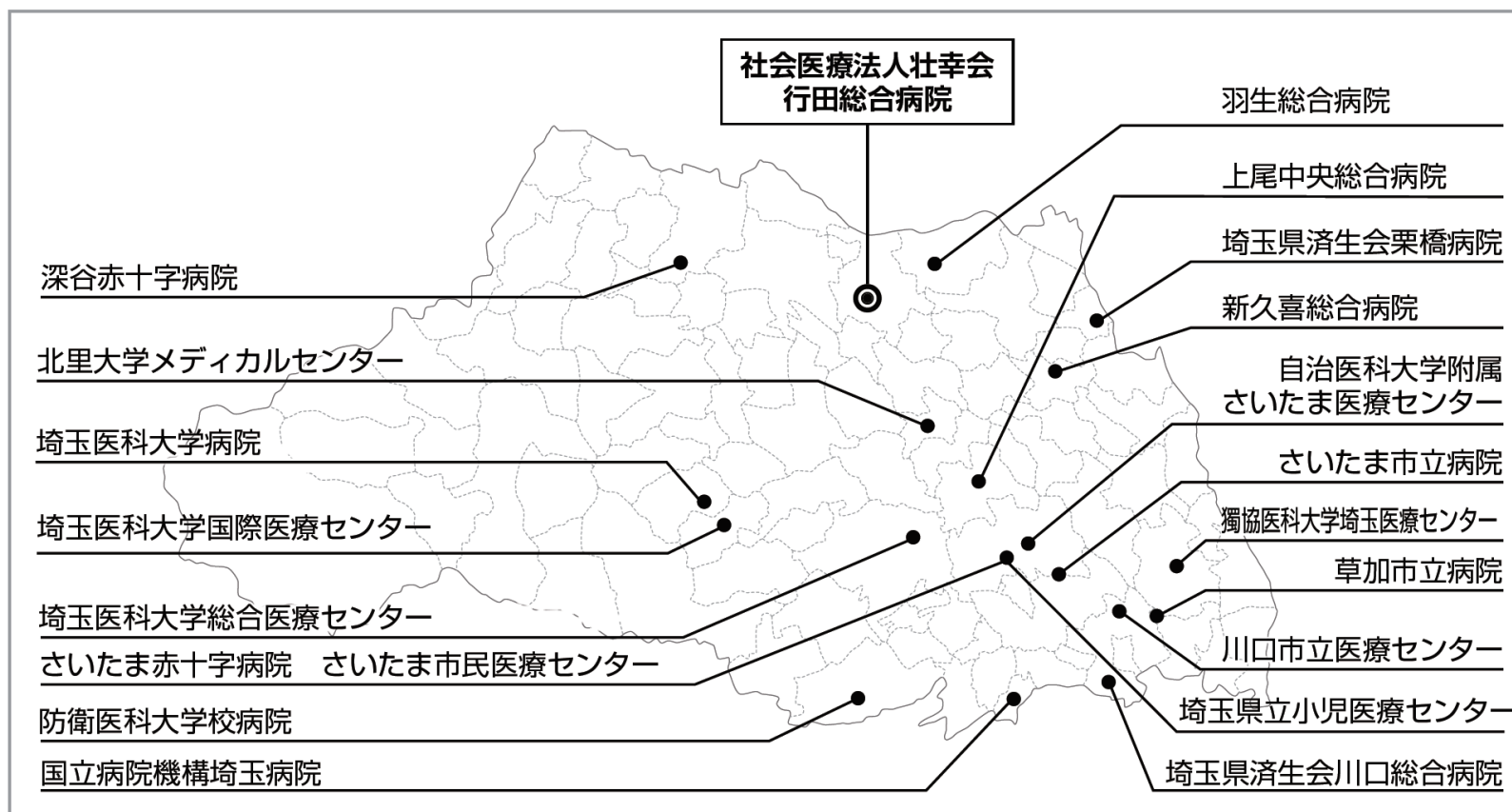
大規模な地震などの災害が起きた場合には、重症のけが人が多数発生します。そのため、けが人の重症度・緊急度を考慮して、救出・治療・搬送の優先順位を決めるトリアージの訓練も行っています。

また、ドクターヘリによる重症患者の受け入れ・搬送を想定した、ヘリコプターの離着陸訓練および救急搬送訓練なども行っています。災害時以外にも患者さんの搬送にヘリコプターを利用する機会がありスムーズな対応が可能となっています。

※DMAT⇒被災地に迅速に駆けつけ救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームです。県内13の災害拠点病院に置かれており、1チームにつき医師1名、看護師2名、業務調整員1名の計4名で編成することを標準としています。

【5】 病院の取り組み

埼玉県内の災害拠点病院（2019年11月現在）



災害拠点病院の承認条件

①診療棟（診察室・検査室・レントゲン室・手術室など）や病棟（病室・ICUなど）の救急施設 ②通常の5倍の外来患者、2倍の入院患者に対応できるスペース ③資材・機材の備蓄スペース ④耐震構造の建物 ⑤水・電気などのライフラインの維持機能 ⑥ヘリコプターの離着陸場 ⑦広域災害・救急医療情報システムの端末 ⑧重篤救急患者の救命医療に必要な診療設備 ⑨患者多発時用の簡易ベッド ⑩医療救護班派遣のための緊急車両 ⑪携帯式の応急用医療資器材・テント・発電機・飲料水・食料・生活用品 ⑫トリアージタッグ

【5】 病院の取り組み

埼玉県救急搬送困難事案受入病院として

埼玉県緊急搬送困難事案受入病院とは、長時間搬送先が決まらず傷病者が死亡した事案を受けて、埼玉県が搬送困難事案の解消を図るため、一定の条件下にて受入を行う医療機関として指定された病院です。

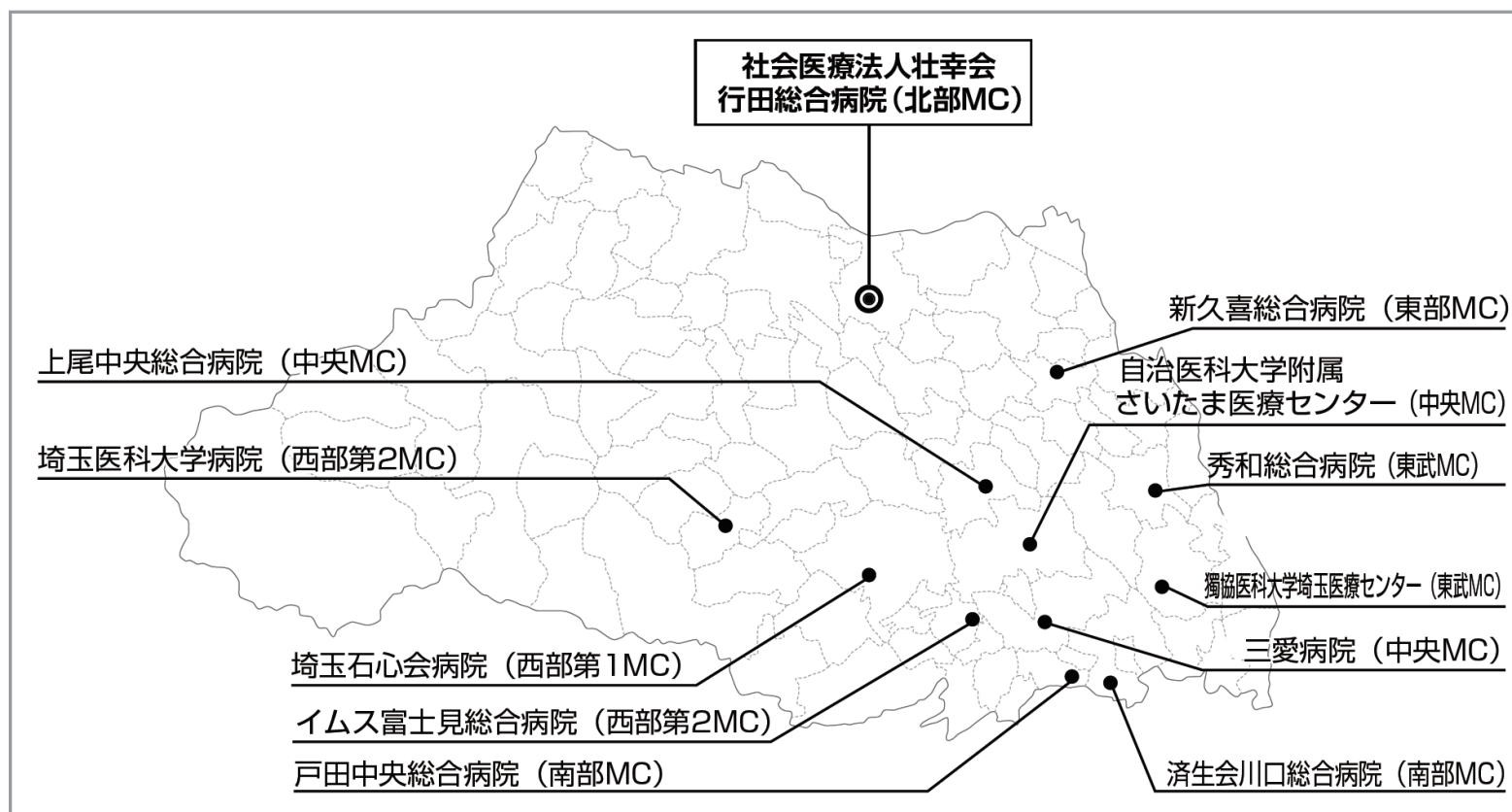
「重症の場合は2回以上、それ以外の場合は6回以上の受入照会をしても受入れに至らない場合」または「現場到着から30分以上経過した場合」に適用され、各地域で基準病院となった医療機関（県内12病院）は、原則として傷病者の収容を受け入れる事になりました。

当院は、県内12の指定病院の中、北部メディカルコントロール圏（行田、熊谷、深谷、本庄、秩父等）では唯一の指定病院です。直近2019年の救急車受入台数は5,017台でした。今後更なる救急搬送件数の増加が見込まれます。

救急車で搬送される患者さんが、あちこちから受入れを拒否される問題は、全国的に深刻です。このため速やかに受入が決まるように、消防法が一部改正され「第6号基準」が定められました。

【5】 病院の取り組み

埼玉県救急搬送困難事案受入病院（2019年11月現在）



【5】 病院の取り組み

日本医療機能評価機構認定病院（一般病院2 3rdG:Ver.2.0）

病院機能評価とは、財団法人日本医療機能評価機構が、学術的観点から、中立的な立場で病院のさまざまな機能を評価するものです。病院が組織として正しく運営されていると認められた場合にこの認定を受けることができます。

評価の対象となるのは、

- 1.病院の組織と地域における役割
- 2.患者の権利と医療の質および安全の確保
- 3.療養環境と患者サービス
- 4.医療提供の組織と運営
- 5.医療の質と安全のためのケアプロセス
- 6.病院運営管理の合理性
- 7.療養病床に特有な病院機能、など

認定を受けた病院は常に業務改善を重ね、5年ごとに更新審査を受けなければなりません。

当院は、2003年6月に当時のバージョン（VER.3.1）で病院機能評価の認定を受けました。その5年後、2008年6月にVER.5.0、2013年6月には3rdG:ver.1.0、2018年12月に3rdG:Ver.2.0に認定更新されています。

※財団法人日本医療機能評価機構⇒厚生労働省や日本医師会・日本病院会・全国自治体病院協議会・全日本病院会・日本医療法人協会などの医療関連協会の外郭団体である

【5】 病院の取り組み

DPC対象病院

DPC（Diagnosis Procedure Combination）は「診断群分類」であり、DPC対象病院とは「診断群分類別包括評価」という入院医療費の定額支払制度を導入している病院をいいます。この制度は、2003年4月に全国の特定機能病院などにおいて開始され、2006年には、当院を含む全国360施設が導入しました。

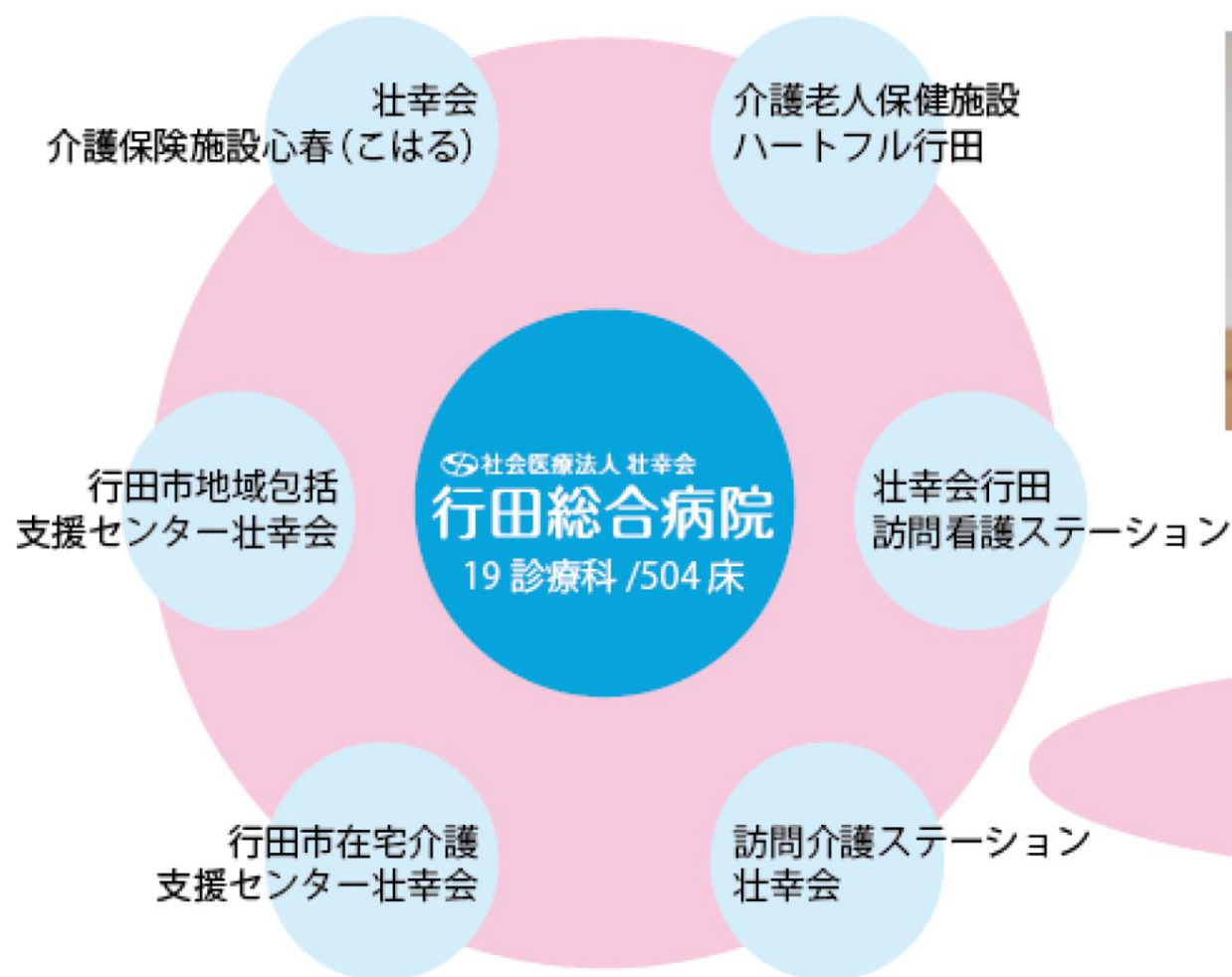
従来の「出来高払い」（急性期入院基本料をベースに、入院期間中に行った一つ一つの診療行為を積算したもの）とは異なり、「定額払い」（診断群分類ごとに厚生労働省が定めた1日当たりの点数をもとに医療費を計算するもの）となります。ただし、手術やリハビリテーション、高額な処置などは出来高のまま残りますので、医療費の総額は「包括」と「出来高」の合計となります。

DPC対象病院は、単に入院医療費の支払い方法が変更するだけではありません。これによって医療費の無駄が減少するとともに、医療の質の向上につながるとされています。

第一に、患者さんにとっては、無駄な医療費が削減されるというメリットがあります。これまでの「出来高払い」方式では、医療行為が多ければ多いほど医療費が増えるため、病気やけがの快復を長引かせた方が病院の収入が上がるという矛盾を抱えていました。

第二に、病院にとっては、それぞれの診断群分類ごとに患者さんのデータを集積し、個々の患者さんに対する診療行為の適切性を評価することが可能になりました。また、クリティカルパスの導入による医療の標準化と効率化にも直結します。DPCの導入は、最小限の医療資源の投入で最大限の治療効果を目指すための「モノサシ」を得たことになり、病院が提供する医療の質の向上に大きく貢献すると考えられています。

社会医療法人壮幸会グループの ヘルスケアネットワーク



社会福祉法人 壮幸会
特別養護老人ホーム

雅 みやび

100 床

※平成 28 年 4 月オープン

- 【1】 病院概要
 - 【2】 理事長挨拶
 - 【3】 基本理念と運営方針
 - 【4】 病院の沿革
 - 【5】 病院の取り組み
 - 【6】 2020年度職員募集について**
-

【6】 2020年度職員募集について

募集の背景

行田総合病院は2020年度に新病棟を建設し、より高度救急・高度急性期の患者さまを受け入れることができるようになる見込みです。
多くの患者さまに医療を提供するため、人員についても増員強化に努めています。



【6】 2020年度職員募集について

募集職種

職種	人数	給与	勤務時間	休日
事務系総合職 (人事、総務、経理など)	1名	大卒：200,000円～	9:00～18:00 (休憩60分)	日曜、祝日、土曜日午後
事務系一般職 (医師事務作業補助)	3名	一律：170,000円～	9:00～18:00 (休憩60分)	日曜、祝日、土曜日午後
医療事務 (外来・入院医事課)	5名	一律：170,000円～	外来 8:30～17:30 入院 9:00～18:00 ※月に数回7:30～ 19:30の間に早番遅 番あり、各休憩60分	日曜、祝日、土曜日午後 ※365日稼働のため上記い ずれも交替出勤あり
社会福祉士 (病床管理室)	1名	大卒：200,000円～	9:00～18:00 (休憩60分)	日曜、祝日、土曜日午後
介護福祉士	3名	一律：175,000円～	早番 7:00～16:00 遅番 9:30～18:30 各休憩60分	シフト制 (月9日休み)
看護助手	5名	一律：160,000円～	早番 7:00～16:00 遅番 9:30～18:30 各休憩60分	シフト制 (月9日休み)

【6】 2020年度職員募集について

諸条件（全職種共通）

採用年月日	2021年4月
雇用形態	正規職員（期間の定め無し・定年60歳）
休日・休暇	月9日休み（年間休日110日以上）※1か月単位の変形労働時間制：週40時間 ・年次有給休暇（初年度10日・繰越込で最高40日） ・産休/育休 ・看護休暇/介護休暇 ・慶弔休暇
賞与	年2回（7月・12月）
諸手当	・時間外手当 ・住宅手当（世帯主のみ） ・家族手当（配偶者・子）
福利厚生	・社会保険完備（厚生年金・健康保険・雇用保険・労災保険） ・交通費支給（上限25,000円/月） ・車通勤可（無料駐車場完備） ・制服貸与（女性職員のみ上下4着ずつ。男性職員は個人のスーツを着用） ・退職金制度あり（勤続3年以上） ・医療費還付制度 ・提携リゾートホテル利用可 ・各種年間行事、など

【6】 2020年度職員募集について

採用スケジュールについて

就職説明会について	新型コロナウイルス感染防止のため実施しない見込みです。 本資料をご参照ください。
採用選考について	本資料掲載時点において、実施時期および方法は未定です。 確定次第ホームページ・リクナビ・マイナビに情報をアップいたします。 選考をご希望の方はエントリーしていただき連絡をお待ちいただくか、事前に以下の必要書類をお送りください。 ・履歴書（書式自由・写真貼付） ・成績証明書 ・卒業見込み証明書 ※介護福祉士、看護助手をご希望の方は随時選考を実施しております。 ※看護師、コメディカルの採用成功は当院ホームページに記載しております。
書類提出 問い合わせ先	〒361-0056 埼玉県行田市持田376 行田総合病院 採用課 （担当：森・中島） TEL 048-552-1226（採用担当直通） Mail recruit@gyoda-hp.or.jp

 社会医療法人 壮幸会

行田総合病院

Everyone for One